



つながりタイ新聞

福岡県内の地域おこし協力隊がさまざまなモノコトを発信



対談インタビュー
Uターンで起業する、
私たちの三年間のこと。

うきは市新川・葛籠（つづら）地区の山あいに、400年以上前から存在する階段状の「日本の棚田百選」の棚田。米作りを優先させるために日当たりの良い土地を田園にしたこの地域は、周りの山林の緑、森から湧き出る清水、青い空の景色と見事に調和しています。私の祖母の家も同じ新川地区にあり、昔からお水とお米が本当に美味しく、祖母の作るお漬物でご飯を何度もおかわりをしてきたのを思い出します。（うきは市 ラウダーバック友美）

VOL.
21
2023.09

どこでなにしてる？ 地域おこし協力隊コラム



福岡県の南・熊本県との県境に位置する【みやま市】の稲葉が担当させていただきます。

私のミッションは、廃校を再利用した「ルフラン」という施設のプロデュースです。ルフランのテーマは「モノと人の循環」。敷地内にはバイオマスセンターの他に、時間貸しのカフェスペースや食品加工室があり、飲食店での起業を目指す方々が利用しています。

そこで私は、今までのメディアの仕事やアーティストのマネージャーの経験、託児施設、飲食店、内装会社の経営などの経験を活かして、お店のブランディング・商品開発・内装デザインなど、独立に向けてのお手伝いをしています。みやま市に来て約一年。サポートしていた方が、初！店舗オープンしました。本当の成功まではまだまだ長く厳しい道のりですが、今後もお店の繁盛とみやま市の盛り上げに少しでも力になればと思います。実店舗を立ち上げる利用者さんが年間1組以上出ることを目標に、あと一年ちょい協力隊として頑張っていきます！

最後に、瀬高駅前、「地産地消のサンドイッチ」や「揚げたてさくふわドーナツ」などが味わえるオレンジ色のお店【haru】を何卒よろしくお願いたします～



発行元

福岡県地域おこし協力隊新聞部

市町村の枠を超えて集まった、福岡県内の地域おこし協力隊。自分の地域のおもしろいコト、お隣の地域のおもしろいヒト、遠く離れた地域のおもしろいモノ……。地域にとらわれず、さまざまなモノコトを発信します。

Instagram



つながりタイ新聞

つながりタイ新聞は、現在、当ペーパーの発行と、Instagramをメインに活動しています。自分たちの活動のみならず、福岡県で活動しているさまざまな市町村の地域おこし協力隊の情報を発信しています！



ふくおか協力隊図鑑

「ふくおか協力隊図鑑」とは、福岡県内の現役地域おこし協力隊・OB/OGの活動内容や自己紹介をまとめた、ポートフォリオのようなInstagramアカウントです。福岡県地域おこし協力隊新聞部で運営を行っています。



左から、柴田和輝（赤村）、ラウダーバック友美（うきは市）、加藤詩乃（築上町）、稲葉航（みやま市）、高瀬舞（添田町）、松木響子（糸田町）、三角俊喜（うきは市）の、計7名。

うきは市地域おこし協力隊
食のPR推進プランナー

ラウダーバック
ともみ
友美

2021年8月着任。着任前は、カナダで国際物流の法人営業として従事。海上・空輸の輸送オペレーションを行う。



添田町地域おこし協力隊
空き家対策推進員

たかせ まい
高瀬 舞

2021年5月着任。着任前は、福岡市の設計事務所にて5年間勤務。店舗の内装や住宅の改修関係に携わる。



協力隊として 地元へUターン。 3年間の起業準備期間。

卒業後の進路に悩んでいる協力隊員も多いのではないのでしょうか。総務省のデータによると、約40%が卒業後に「起業」という選択をしているそうです。そこで今回は、起業のために都会からUターンしてきたお二人に話を伺いました。

「はじめに、地域おこし協力隊になったきっかけを教えてくださいませんか？」

高瀬さん（以下高瀬）…もともと地元で開業したいと思っていましたが、キャリア5年目の若手建築家が独立しても仕事が入る見込みはありませんでした。そこで、協力隊という制度を活用して、まちづくりの仕事と並行して独立までの足がかりを作ろうと考えました。また、地方創生やまちづくりにも興味があり、仕事の幅を広げたかったという意図もあります。



ラウダーバックさん（以下ラウダーバック）…コロナの影響で長年滞在していたカナダでの生活が難しくなり、アメリカ人の夫とともに、地元であるうきは市に20年ぶりに帰ることを決めました。せっかくなので地元を盛り上げるお手伝いできればと思っていました。協力隊の募集を発見。帰国前から興味を持っていた「食」の分野で地域に関わっていいかと考えました。



「お二人も地元へのUターンで協力隊になったのですね。実際にUターンしてみて感じたメリットはありますか？」

高瀬…そうですね、地元なのでそもそも知り合いが多く、仲間や協力者を探すのに苦労しませんでした。イベントを行う際

も、区長さんといった表立ったキーパーソンだけでなく、「この人にも話を通しておいた方がいいな」といった、地域独特の内情を感覚的に押さえられたのも強みになりました。

ラウダーバック…私は20年ぶりの帰国だったので、風景なども変わってしまい戸惑いもありました。でも、地元ならではの文化や習慣に関しては昔のまま、自然と馴染むことができました。Uターンの一番のメリットは、家族や親戚が近くにいることですね。知人などを通して、活動に関わる情報を共有してもらうこともありました。

「やはりUターン組は、協力隊活動の土台となる「人脈」に強みがありそうですね。実際の3年間の活動についても教えてください。」

高瀬…現在は、空き家を改修してコワーキングスペースを整備中です。協力隊2年目に、副業として建築設計事務所を開業したので、空き家の改修後はそこに事務所も構える予定です。こちらは着任当初から準備を進め

てきましたが、表立って成果が出るには時間がかかるとわかっていたので、単発のプロジェクトも複数行いました。例えば、空き家バンクに登録された物件の魅力を発信する「空き家紹介Web」や「ラム」や町内を走りながら空き家を見学してもらう「空き家マラニック大会」、参加型ワークショップと絡めた「役場ロビーのリニューアル」などです。



役場ロビーのリニューアル

改修中の空き家

ラウダーバック…私は、1年目に農業体験やマルシェ出店を通して、食育やフードロスについて考えたり、関係人口を増やしたりする取り組みをしています。2年目は、うきは市の有

機農産物を使用した商品開発を担当することになり、実際に「Whole Veggie Dashi」という野菜出汁や、プロのラグビーチームと一緒にレトルトのビーガンスパイスカレーを開発しました。それまでの活動と経験をを通して「ラウダーバック」野菜「みたいなイメージができて、商品開発をはじめ色々なイベントなどにも声をかけてもらえるようになりました。現在も新たな商品を開発中です！」



Whole Veggie Dashi

「なるほど。特にお二人は、起業の準備と協力隊の活動を同時に進めていることもあり、そのギャップや業務量に苦労することもあると思いますが、意識していることはありますか？」

高瀬…常に「裏テーマ」を持つことです。前提として私たちは「地域おこし協力隊」なので、地域を盛り上げるための事業を行

いますが、「ただ町のために働いて疲弊して終わり」にはならないように「任期後の自分の事業にどう役立つか」など意識しています。例えば、初年度に実施したイベントの際には、協賛金集めを通して事業者さんと繋がりをつくったり、建築家としての名前を出すようにしたりしました。



「さいごに、お二人の今後のビジョンについて教えてください。」

高瀬…「自分の好きな場所で、自分の好きな仕事をしたい」これが私のライフプランの軸です。その拠点を作るために協力隊になったのですが、思えば任期中

の生活自体も私の理想の暮らしだったと思います。今後は、設計事務所をメイン事業として軌道に乗せること、コワーキングスペースはとりあえず継続することを目標にしています。長期的な目標は、その拠点でイベントなどを企画して、地元が面白い人や事業が集まる「なんか面白い過疎地域」になればいいなと思っています。田舎は、特に仕事の面で、選択肢が限られているので、自分が一つのモデル事例になり、そして他の人の選択肢を増やすきっかけにもなれたら嬉しいですね！」

ラウダーバック…私は昔から環境問題、特にゴミ問題に興味があり、卒業後はゼロウェイスト「量り売り」のお店をしたいと考えています。海外では浸透しつつありますが、日本ではまだまだ個包装が主流で、また消費側も生産側もフードロスが多い仕組みになっていきます。とはいえ、問題として難しく考えるのではなく、生活の中で一人でも多くの人々がゆるやかな意識を持ってほしい、そのきっかけに自分が必要だと思っています。ビジネスとして成立するのか、ちゃ



対談日 令和5年7月26日
ファシリテーター 三角
ライター 松木

対談の全文を
インスタグラムに掲載中！

「協力隊になって大変だったこと、や、もし空想のスーパーパワーを手に入れることができるのなら、なんて質問にも答えています！ぜひ裏面のインスタグラムQRコードからご覧ください。」